

# 新建・寺子屋 (モダニズムの研究) 254 報告

近代建築を多角的に検討／モダニズム建築文献再読；

2018.7.18

—藤森著『日本の近代建築』の分析—第 20 回  
日本の初期モダニズムとアントニン・レーモンド第 15 回 (スライド X V)

話：三沢浩

■ 寺子屋 254 は 5 人の参加で開催されました。

■ 一つの時代に急激に盛り上がりそのまま冷めてゆく。そうした熱病のような時代の要請が「折版構造」にもあったようです。日本ではレーモンドとレーモンドスクールともいえる前川、丹下といった人たちが大きな作品を生み出し、それに先立つ米国でもブロイヤーやネルヴィが大胆な構築を残しています。ノヴィツキーの農業アリーナなどはとても鮮烈です。ではなぜ、折版構造は今につながる建築の一つになりえなかったのか。その意味を探っていくことも近代建築と現代建築の不連続面を知るきっかけになりそうな気がします。



ブロイヤー：聖ジョン教会



ブロイヤーとネルヴィ：ユネスコ会議場

\*\*\*\*\*

新建・寺子屋 (モダニズムの研究) 254

2018 年 7 月 18 日 (水) 話：三沢浩

近代建築を多角的に検討／モダニズム建築文献再読；

—藤森著『日本の近代建築(上、下)』の分析—第 20 回  
日本の初期モダニズムとアントニン・レーモンド 第 15 回 (スライド X V)

A・レーモンドの初期モダニズム (前回からの続き)

## 1. 前回のスライド X IV への補足

- 1) 藤森の著書はレーモンドを賛美して終わっている
- 2) レーモンドの弟子筋 (前川、丹下) に移っていく
- 3) しかし、モダニズムの研究でレーモンドの戦後の活動は欠かせない
- 4) 藤森の著書は戦前で終わっているから、もう少しつきつめたい

## 2. 今回 X V スライドの要点は主として、戦後の A.R. のモダニズムにする

- 1) レーモンドは戦後、ようやく RC 造の方法論を確立
- 2) スライドは藤森の著書をこえて、モダニズムを追求
- 3) 特にワイドリンガーの影響をうけて、戦後の RC 造をつくりあげた
- 4) RD 社、八幡体育館そして「ペリー・ハリス アパート」へ

## 3. 折版構造の一時的高まりに注目したい

- 1) レーモンドはワイドリンガーの刺戟以上の考え方をもった
- 2) しかし、自らも教会建築を通して新しい RC 造の方向を
- 3) その頃、折版 RC 造が世界の方々に流行していた
- 4) 日本では前川 (福島、世田谷)、丹下 (駿府、今治) の設計
- 5) アメリカではノヴィツキー (ローリーの農業アリーナ、1952) の新しい交差梁
- 6) ブロイヤーのミネソタ (聖ジョン教会、1960) の折版教会
- 7) ブロイヤーとネルヴィの (ユネスコ会議場、パリ、1958) の折版もある

## 4. レーモンドの折版構造への執念

- 1) 聖アンセルム教会 (1955) は中途半端な折版
- 2) 聖パトリック教会 (1956) も神父の意向で完全にならず
- 3) 聖ポール教会 (立教高校、1963) の鞍型シェルは失敗作
- 4) 神言神学院教会 (名古屋、1966) はシリンダーシェル構造
- 5) 群馬音楽センター (1961) が折版構造大スパンで成功

## 5. 関連スライド上映

次回 < 寺子屋 255 > ■近代建築を多角的に検討■モダニズム建築に関する著作再読

藤森照信著『日本の近代建築』の研究—第 21 回

話：三沢浩

日本の初期モダニズムとアントニン・レーモンド 第 16 回

2018 年 9 月 19 日 (第 3 水曜日定例) PM 7:15 ~ (8 月はお盆休みとします)

場所：新宿区水道町 2-8 長島ビル 2 階 (江戸川橋駅神楽坂駅徒歩 5 分)

会費：400 円 問合：大崎元 (有) 建築工房匠屋 VED03705@nifty.com